

一 辰巳用水の水音



「城下町の風情が色濃く残る金沢市は、浅野川と犀川、そして多くの用水がかげめぐる水の街でもあります。中でも辰巳用水は我が国有数の用水で、1632年完成。今もその隧道を水は流れます。」

かいせつ

金沢は市内を流れる浅野川・犀川の2河川に加え、用水が街中を縦横にかけめぐる水の町です。数多い用水の中でも辰巳用水は、玉川上水、箱根用水、五郎兵衛用水と並び日本有数の用水です。この用水は寛永8年(1631年)に城下を焼き尽くした大火を契機に工事が始まり、隧道(トンネル)や逆サイホンを使う当時の最先端技術を駆使してほぼ1年足らずで完成したと伝えられています。城を取巻く堀に水を満たし、防備の強化を担っていた点が大きな特徴です。現在も、金沢城址の東側にあたる兼六園へは地下管を通して辰巳用水が導水されています。水路を守るため、修理や取替えを行なう「江ざらい」や、雑草を刈取り水の通りを維持する「江の掃除」など、地域ごとに多くの人々が用水を守る努力を続けています。また平成5年(1993年)には、金沢市大森町から錦町にかけて「辰巳用水遊歩道」も完成し、せせらぎを聞きながら、用水沿いを散策できるようになりました。

